

鎌ヶ谷市生涯学習審議会 平成30年度第2回会議 会議録

- ◎ 開催日時 平成30年11月7日（水） 10時～11時10分
 - ◎ 会 場 東初富公民館 2階 集会室
 - ◎ 出席委員 11名
篠田繁会長、赤松茂頭委員、有川かおり委員、伊藤眞由美委員、今村濃太委員、
小林修一委員、佐藤克己委員、竹内春美委員、細井和美委員、森本聡委員、御
代川泰久委員
 - ◎ 欠席委員 4名
谷口隆子副会長、石田友和委員、清松楯男委員、篠原勝委員
※鎌ヶ谷市生涯学習審議会の委員定数15名に対し、出席委員11名であり会議
は成立した。
 - ◎ 事務局 7名
青木生涯学習推進課長、大関生涯学習推進課主幹、三石文化・スポーツ課主幹、
渡邊生涯学習推進課副主幹、渡邊生涯学習推進係長、田中主任主事、関主事
 - ◎ 傍聴者 0名
- 1 開会
 - 2 会長あいさつ
 - 3 会議録署名人の選出
50音順に2名選出する慣例により、佐藤委員、竹内委員に決定。
 - 4 協議事項
 - ①平成31年度社会教育関係団体に対する補助金交付について
～事務局から資料に基づき説明～
【意見及び質疑応答】
委 員： 子ども会育成会連絡協議会の子ども会はどのような単位であるのか。
また、子ども会と育成会の関係について教えていただきたい。

事務局： 全国子ども会連合会という全国の組織の下部に千葉県子ども会育成連合会があり、その下に鎌ヶ谷市子ども会育成会連絡協議会が位置付けられている。その連絡協議会の下に各単位子ども会である5団体がそれぞれ独自の活動をしている。

委員： 単位子ども会は、市内を5つの地域に分け、その地域ごとにあるものなのか、それともある地域だけ偏在的にあるものなのか。

事務局： 5つの子ども会は、ほたる子ども会、なかよし子ども会、向原地区子ども会、どんぐり子ども会、東武子ども会があり、それぞれの地域ごとにある子ども会である。

委員： 子ども会は任意団体のため、成り立ちは様々である。自治会とタイアップしている、要するに自治会の会員さんの子どもは子ども会に加入してね、ということで運営している子ども会が3団体である。なかよし子ども会は受所自治会、向原子ども会は道野辺第一区自治会、どんぐり子ども会は道野辺第二区自治会として、その地域の子ども達が大人と一緒に、顔の見える関係で地域活動をバックアップしている。

東武子ども会は東武団地がベースだが、初富小学校の児童は誰でも加入できる子ども会であり、ほたる子ども会は、鎌ヶ谷小学校の児童であれば誰でも加入できる子ども会である。

子ども会は地域の中で大人に見守られながら活動をしており、子どもに必要な「学校・家庭・地域」の「地域」を担っているものである。育成会は、子ども達の保護者が育成会にあたり、子ども達だけでは活動ができない為、育成会が子どもたちの安全を見守り、資金面をカバーし、場所の確保などを担っている。子ども達は、企画運営をしながら自分たちで遊びの場を作っていくというのが本来のスタイルで。

委員： よく理解できた。

委員： 前回の補助金交付について議題があった際に意見をしたが、芸術文化協会の補助金額が23万円というのは、財政の問題もあるのですが、文化の香り高いまちづくりを目指している割には金額が少ないのかなと思う。補助金を出せば良いというものでもないと思うが、今回はやむを得ないと思うが、将来的に検討していただく余地はあるかと考える。

事務局： 文化振興の担当課としては、予算を上積みしていきたい気持ちはあるが、財政状況からすると現状維持、またはこの先こういった補助金などにもメスを入れられる可能性がある厳しい状況であることをご斟酌いただきたい。ただこのような意見があることは承知しておりますので、補助金の面だけではなく、申請などバックアップできることは担当課として行っていきます。

いと考えている。

会 長： 基本的には予算は変わってなく、事業目的もそうそう変わるものではないが、資料の事業内容についてはその年によって変えても良いのかと思う。鎌ケ谷市小中学校PTA連絡協議会は75世帯減少、鎌ケ谷市「小さな親切」運動の会は5人増加、鎌ケ谷市スカウト連絡協議会は23人減少であり、大きく変動はない。どれも大切な活動だと思うので、よろしく願いしたい。

②生涯学習市民アンケート調査の結果について（途中経過報告）

～事務局から資料に基づき説明～

5 報告事項

- ・ 審議会出席状況について

～担当委員から資料に基づき報告～

6 その他

～鎌ケ谷市中期財政見通しの資料に基づき報告～

7 閉会

会議録署名人の署名

以上、会議の経過を記載し、相違のないことを証するために次に署名する。

平成30年11月29日

氏名 佐藤 克己

氏名 竹内 春美